



中植 昭彦

一、スクールバスの住民利用を！ 二、商工業の振興で本町の活性化を！

スクールバスの住民利用を！

問 24年12月議会において、スクールバスの活用についてはできるだけ早い段階で活用が出来るよう努力したい。また、ボランティアや福祉施策と連携した新たな移動手段の確保を検討していくと答弁があったが、その後の進捗はどうか。

答 スクールバスの副次的利用については、児童生徒の送迎をまず最優先として有効活用を検討してまいりたい。スクールバスの運行形態（朝1便、放課後3便）が確定しているから、そこからどういった活用が出来るのか検討していきたい。それから交通システムの再構築だが、行財政改革プログラムの中でも、行財政運営における検討項目として議論を一層本格化させるべき重要な課題であると認識している。種々検討しているが、地域の皆

様の暮らしにとって真に必要な持続可能な交通システムを構築してまいりたい。以前、検討をしていた能勢版ナルク方式はなかなかボランティアの数が確保出来るかという課題もあり具体的には進んでいない。

問 この課題はかなり深刻で待ったなしの状態である。具体的な行程を示してほしい。

答 スクールバスの昼間利用については、路線バスのあまり通らない地域、またほとんど通らない地域を補完するのを最優先と考へ段階を踏んで28年度中にはテスト的にスタートしたい。

商工業の振興で本町の活性化を！

問 26年6月20日に成立した、小規模企業振興基本法は、小規模企業が地域経済、地域コミュニティの維持に大きく貢献し

てきたことを定義し、小規模企業の先駆的な取り組みにはもちろん、継続的な発展も支援対象に位置づけ、企業、地域経済のために支援していく法律である。国が5年間の支援計画を定め、国会に報告し、地方公共団体が振興施策を策定する責務を規定されている。また、商工会、商工会議所においても振興策について国の認定を受け、地方公共団体、金融機関と連携して進めていくとある。対応策は。

答 現在、国が支援計画を定めている段階である。大阪府の方針についてもまだ固まっていない。現在、検討中とのことであったので本町の具体的な動きはまだである。商工会との連携は計画の策定、施行についても法律の趣旨の通り、関係金融機関等との連携も密に支援してまいりたい。

一般質問



長尾 義信

子育てしやすい生活環境の整備

問 緑豊かな自然と美しい田園、なだらかな山々に囲まれた素晴らしい町。しかしながら幼児から子ども、高齢者までが安心して遊べる身近な公園、広場や外遊びの環境整備の対策は、一向に進展していないと思うが、現状及び今後の施策について問う。

答 町域が広く集落が分散している本町では、都市部のように身近な場所に子どもが遊ぶことのできる公園がない。そのため、今ある地域資源を活かして、子ども・子育て場の遊びの場や集える場の提供をしていきたいと考えている。今後、新学校の「学びの丘」の開放や小・中学校の跡地利用も含め検討している。

一、子育てしやすい生活環境の整備 二、通学等の安全対策 三、スポーツツーリズムの取り組み

通学等の安全対策

問 登下校時の自転車乗車中による交通事故が多発している。その中で、通学自転車の安全点検、指導及び継続的に交通安全教育を実施されているか。また、新学校開校に向けた通学対策の進捗よく状況について問う。

答 年度当初に豊能警察署による、実施指導、講話などをもとに始業点検や整備、安全な乗り方を促している。また、PTAと協力しながら月1回程度、下校時の安全指導を行っている。新学校に向けた通学対策は、通学路安全推進会議を開催し、通学路の安全確保や検討事項等について取り組んでいくことを確認した。併せて、各学校・校区からの危険個所の改善要望も推進会議に提案し、現校への通学の安全確保も同時に図っていきたく考えている。

スポーツツーリズムの取り組み

問 年間を通じたウォーキング等の健康づくりの場をコース設定し、能勢町の観光と融合させることは、交流人口の拡大や地域の活性化及び健康意識の高揚につながると思うが、また、ラジオ体操の普及活動の進捗よく状況について問う。

答 20年度にウォーキングコースを設定した。現在、ウォーキングリーダーを中心に新しいコース設定に取り組んでいる。その中で、コースの発着点や休憩場所として観光資源を組み入れることができないか研究を重ねていきたい。ラジオ体操の普及活動については、職員4名が公認ラジオ体操指導員資格を取得し、講習会や地域の行事等に指導員を派遣し、普及に努めている。合わせて25回約2000人が参加した。